

Voiesのヴォーリスだより



巻頭言

「新年度を迎えて」

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院
院長 五月女 隆男



Vol. **174**

2025年5月発行

基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。
－ 私たちは、基本理念を大切にします。－



「新年度を迎えて」



院長 五月女 隆男

『地域包括ケアシステム』という言葉をお聞きになった方はどれくらいおられますか？厚生労働省が各医療圏での中・長期目標を定める中で出来上がった言葉で、現在の地域医療は一つの病院ですべてを完結できることは難しく、いくつかの病院や診療所が連携してその地域に居住される方の健康・病気と向きあい、一人一人が住み慣れた地で最期まで自分らしく生きることができるよう支援するシステムのことをいいます。当然ながら都市部と周辺部・田舎ではその構成は異なり、意図するところも変わってきます。医療圏ごとの必要病床数（急性期、回復期、療養など）が概算されています。当院は東近江医療圏に位置し回復期病床数の増加が望まれており、昨年11月に急性期病床から地域包括ケア病床への転換を行いました。急性期の名称がなくなるため不安に感じられる方もおられるとは思いますが、医療の内容が変わることはなく、急性期治療はこれまで通り行われますのでご安心ください。目指すところは在宅復帰率を上げることであり多職種が連携して包括的な医療を提供することを基本としております。

今後は全国的に2040年を見据えた医療展開がなされていきます。高齢化率の高い地域、人口減少が激しく患者数の減少で病院の存続すらも危うくなる地域、地域特性にあわせた柔軟な対応が求められております。特に病院間連携の重要性が着目されており、病院の特色を明確化して的確な病院で的確な医療を提供できることが必要となります。かといって個々の病院の機能を大幅に変更することは困難であり、相補的な関わり合いを強化することに重点が置かれます。さらにかかりつけ医の存在も重要となり、かかりつけ診療所からの病院へのアクセスが良くなることも期待されます。なんでもかんでも大病院指向から隅々まで手の届く家庭医療への転換期を迎えているといえるでしょう。臓器別専門医志向の若手医師だけでなく家庭医療を目指す若手医師を教育する医療機関の一つとして当院も研鑽を継続していきます。近江八幡の地より日本を代表するような地域医療拠点として斬新なアイデアとモチベーションを生み出していきたいと考えております。病院経営が不透明性を増すこの頃ですが、当院の特色を生かした医療を今後とも展開してまいります。

さて気候変動の大きい昨今ですが、穏やかな4月1日に当院の入職式が執り行われました。病院として13名、ワークステーションに1名の計14名が新入職されました。他病院でキャリアを積んだ方、社会人としてはピカピカの1年目の方、それぞれに胸に秘めた想いや計画があることでしょう。ヴォーリズ氏が設立し歴史あるこの病院で107年目をともにできることを喜んでおります。ヴォーリズマインドは穏やかな心のなかにこそ芽生えるものです。医療者と患者さまがともにこころ豊かに毎日を送れることを願ってやみません。

チャプレンだより③⑥ 「光が射し込む場所」

チャプレン 中村信雄

イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。そこで、イエスの評判がシリア中に広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。（マタイによる福音書4章23-25節）

この聖書の言葉は、1918年5月25日、ツッカーハウスの献堂式で読まれた聖書箇所の一つです。

イエス・キリストが神の愛を伝え始めたときのことです。その場所は、ガリラヤだったとあります。当時、ガリラヤは「ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民、死の陰の地に住む者」と揶揄されていました。

神の民であると自負していたユダヤの人たちは、ガリラヤが地理的に離れていた場所というだけではなく、そこに住んでいるのは心の面でも離れている人たちだと考えていました。そして神に守られている自分たちとは違い神の救いから遠い人たちだと考えていました。目には見えない線がそこにありました。

イエス・キリストは、そのガリラヤから伝道を始めたのです。人が作ったあらゆる境界線を越えて。「あなたは神に愛されている大切な存在だよ」、その声を聴いた人たちの心に光が射し込みました。

その神の愛は、聖書の時代も、近江療養院のときも、そして、今も変わることなく私たちに注がれています。



医薬品を取り巻く環境を考えるシリーズ その1

薬剤師 新庄 安宏

「パンがなければお菓子を食えばいいじゃない」

現在ではマリー・アントワネットの言葉ではないというのが定説です。

今、医療業界でかつてないほどの医薬品不足に見舞われています。当初、後発医薬品製造会社に製造時の不正が発覚したことが発端とされ、数年で改善すると言われていましたが、新型コロナウイルスの蔓延を経ても一向に解消する気配がありません。

「もっとつくればいいじゃない」と思われるでしょうが簡単ではありません。製造会社には法令による厳しい品質管理基準が課され、基準を満たした原料しか使用できないうえ、原薬（医薬品の元となる成分）の約70%を海外（中国・インドで世界全体の70%を占める）からの輸入に依存しています。年単位の流通計画に沿って製造するため、増産には少なくとも半年以上かかります。

「日本で原薬をつくれればいいじゃない」と思われるでしょうが、日本で原薬を製造するとコストが高くなるうえに、結局、原薬を製造するための原料を輸入（中国しか製造していない原料も多い）しなければ、ほとんどの原薬が製造できないのです。また、日本は数十年に渡って輸入に頼ってきたため、国内で原薬を製造する術を失っています。それでも一部の企業で輸入に頼らず原料から日本で製造しようとする動きが出てきています。

「薬がなければ…」とんでもないことですね……。



特集

2025年度 入職式

4月1日（月）
入職式、就任式、新年度礼拝



例年に比べ少し肌寒い中、当院チャペルにて入職式を執り行いました。当院では新入職14名、昨年よりの中途入職31名の総勢45名の皆さんを共に働く仲間として迎え入れることができました。

最初に、中村チャプレン司式のもと、誓約式に臨んだ後、公益財団法人近江兄弟社の三ッ浪 健一理事長、五月女 隆男院長より歓迎と奨励の言葉を頂きました。

新しい仲間と共に、職員一同、知識と技術の習得に努め、地域医療のさらなる発展に貢献できるよう、精進していきたいと思います。

ご入職おめでとうございます！



入社式を迎えて、緊張もありましたが、私達を笑顔で迎えてくださり、気持ちが和らぎました。新人看護師として、自分達ができることは積極的にを行い、視野を広げていきます。また、患者さんの個性を活かした看護を提供できるように頑張ります。

看護師 蘆原 ねね花



理事長 三ッ浪 健一



院長 五月女 隆男



この度は入社式を開催して頂き、誠にありがとうございました。入社前は不安もありましたが、入社式を通して医療人としての第一歩を実感し、身の引き締まる思いです。これからは患者様一人一人に寄り添い、信頼される理学療法士を目指して日々精進して参ります。

理学療法士 村田 咲希

骨粗鬆症について

リハビリテーション科 医師 西野 智至

骨粗鬆症は、骨の量が減ることによって骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。閉経後の女性に多い病気ですが、加齢とともに男性にも起こります。特に高齢でやせ型の方は、骨粗鬆症になる可能性が高くなります。日本では約1,300万人が罹患していると予測されているものの、適切な診断、治療がなされずに骨折してしまう方が多いという問題があります。

骨粗鬆症自体には症状はありませんが、結果としておこる骨折により、日常生活が難しくなっていきます。介護が必要となる原因の約14%が転倒や骨折によるものであり、一度骨折を起こすと次に骨折をおこす可能性が高くなり、骨折を繰り返すことにより、さらなる身体機能の低下につながる悪循環となります。また、骨粗鬆症によりおこしやすい骨折の一つに大腿骨の付け根の骨折があり、手術が必要となる上に、骨折後5年以内におよそ2人に1人が命を落とすと言われる恐ろしい骨折ですが、高齢化とともに、患者数も年々増加の一途をたどっています。

骨を強くするためには、カルシウムやビタミンDを多く含む食事や運動が有効ですが、骨粗鬆症と診断された方は、薬での治療が必要となります。特にこの15年ほどの間に、効果の高い様々な注射薬が日本で使用が可能となっており、ますます骨粗鬆症の発見が重要となっております。もっとも有用な検査として、DEXA法によるX線骨密度検査があり、当院で施行可能ですので、担当医や整形外科外来にてご相談ください。



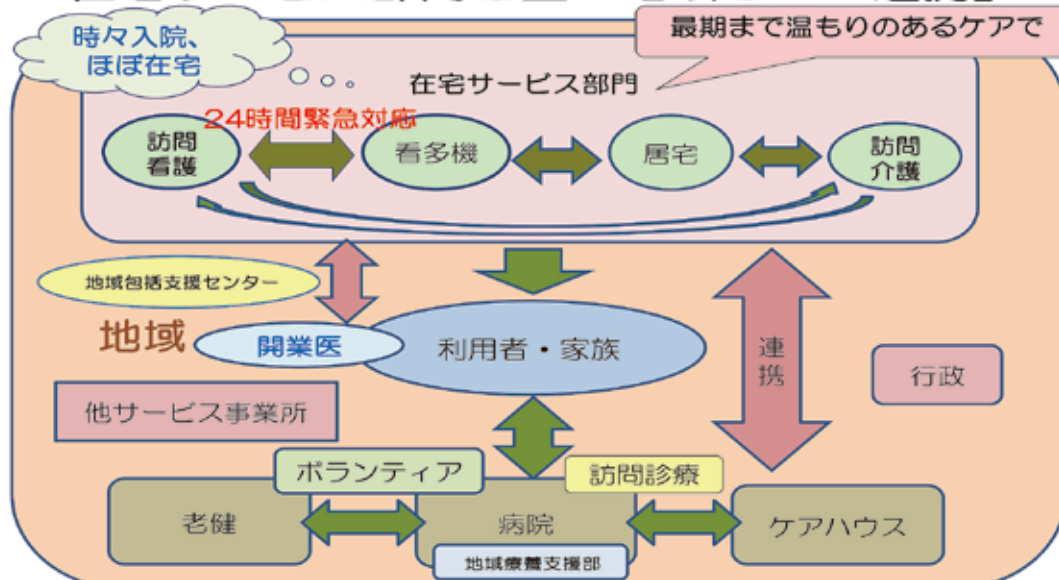
在宅サービス部門の紹介と役割について

在宅サービス部門長 川原崎 友子

『在宅サービス部門』は、4事業所を運営しています。スタッフは総勢約60名、日々在宅で療養されている方々のところに訪問し、できる限り最期まで住み慣れた自宅でその人らしく生活できるように、看護・介護・相談支援を行っています。また、実習生も多く引き受けており、在宅看護・介護の魅力発信をしながら人材育成や教育等についても取り組んでいます。

利用者・家族様からは、「ヴォーリズさんをお願いしてよかった」とたくさんの感謝のおことばもいただいています。これからも地域の皆さまから必要とされ続けられるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

在宅サービス部門と里・地域との「連携」



BLSについて③

医療安全管理室 吉崎 直美

心肺蘇生法として、心臓マッサージ30回に対してマスクで2回呼吸を送りこむことが継承されています。しかしコロナ禍を経過しマスクで呼吸を送り込む事を省略する事も可能と言われています。つまり「絶え間ない胸骨の圧迫」が重要になります。大切なことは…

胸骨圧迫の
圧迫する位置

胸の真ん中の胸骨下半分

- * 胸骨の下半分の位置を
- * 1分間に100～120回のテンポで
- * 胸が5cm沈む程度の強さで
- * 絶え間なく圧迫することです。



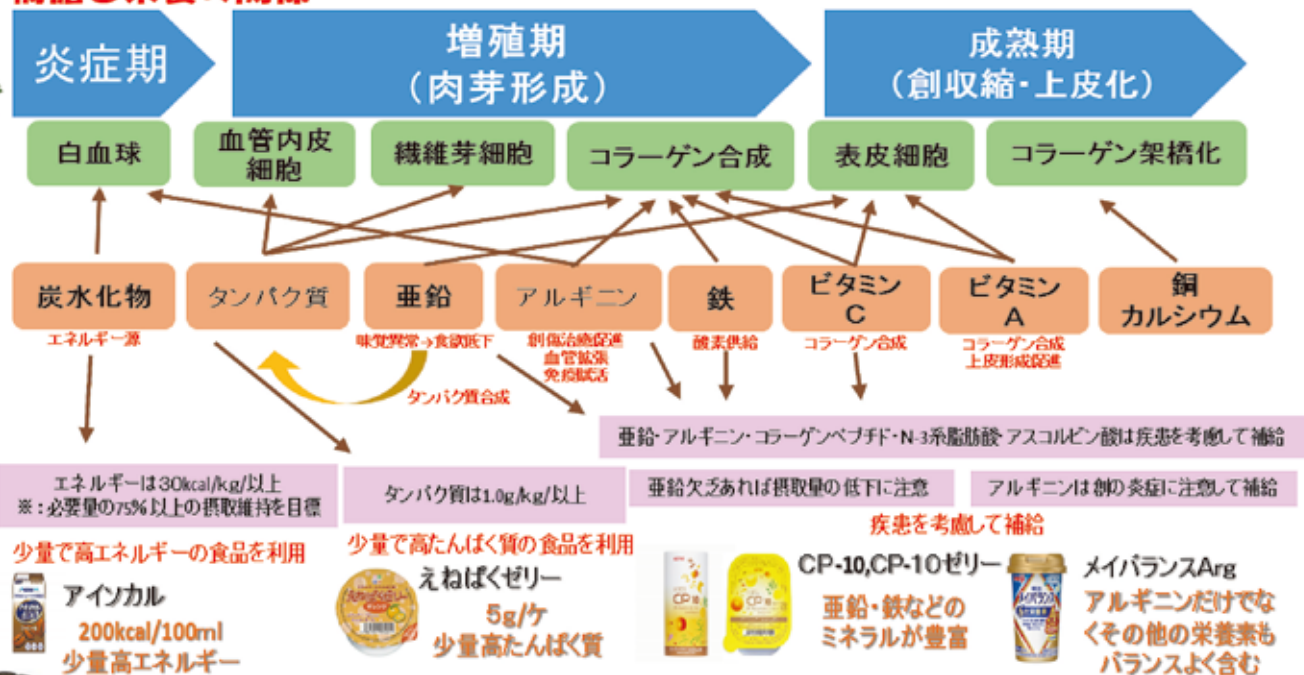
継続して効果的な胸骨の圧迫を続けるために、前回号でお伝えしたように、多くの人に応援を呼びかけ、交代で続けます。
そしてAEDが到着したら、AEDのアナウンスに沿って救急車が到着するまで救命を継続します。
心肺蘇生法（BLS）講習をご希望の方は、お近くの消防署でも受けることができます。

管理栄養士ようちゃん
おススメ！

褥瘡（床ずれ）と栄養素のまとめ

当院では褥瘡（床ずれ）のある患者様に対して医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフと共に筆者自身も管理栄養士としてチーム医療に参加しています。そのような中で「栄養士さんってどんな風な所に注意してるの？」と質問もあるようになってきました。実際に筆者が考えている褥瘡と栄養の関わりをまとめて紹介致します。

褥瘡と栄養の関係



患者様の不足している栄養素や嗜好、病態を考慮して食事内容や栄養補助食品の調整を行います。

令和5年度 里モニター会開催！

里モニター会 委員長 加藤 和幸

3月8日に5名のモニター委員をお招きし、モニター会を開催いたしました。

モニター会は患者家族さまに、委員となつていただき、モニター会で客観的な視点からご意見を伺っております。モニター会の役割としては、以下のものがあります。

- ・ 患者さんや地域住民の視点からの意見収集

患者さんや地域住民が病院に対して抱えている期待や要望を聞き取り、里全体の運営に反映させる。

- ・ 医療の質の向上：医療の質に関する客観的な評価を行い、改善点を見つける。

- ・ 病院の透明性の向上：里全体の活動状況を外部に公開し、信頼性の向上に繋げる。

今回のモニター会の内容に関しては、「技能実習生の受け入れ」「出前講座の取り組み」に関して報告し、意見交換をさせていただきました。委員の皆様からは感想やご意見、ご提案をいただくことができました。頂戴しました内容を今後の「医療・保健・福祉の里」全体で共有し、より良い医療介護体制が提供できるよう精進いたします。



シリーズ「検査科だよ！」

「呼吸機能検査」

臨床検査技師／臨床工学技士 鯉江 賢二

新型コロナウイルスが猛威を振るっていた時期は呼吸機能検査を中止していましたが、一昨年からこの検査を開始しています。今回はドック・健診で実施している呼吸機能検査についてご説明いたします。

肺活量（VC）と努力性肺活量（FVC）〔努力呼気曲線・フローボリューム（F-V）曲線〕の二つの項目をしています。どちらもスパイロフィルタを装着したマウスピースを口にくわえます。肺活量（VC）検査は3回以上の安呼吸を確認後、そのまま一定のスピードで最大呼出をしてから最大吸気位まで吸入し再び最大呼出します。最大呼気を確認後、吸気して測定終了です。この検査は最大呼気から最大吸気まで吸入することで肺の大きさを調べることができ、肺の拘束性障害の有無を調べます。次に努力性肺活量（FVC）〔努力呼気曲線・フローボリューム（F-V）曲線〕検査は安静呼気位から最大吸気まで吸気し、最大限の力で一気に努力させて最大呼気をします。肺活量と違うのは大きく吸って一気に吐いてもらうところが大きく違うところです。FVCの目的は主に閉塞性障害をきたす疾患の有無を調べます。どちらも患者様の最大の努力があつてはじめて意義を持つ検査で、他の検査と異なり、検査結果が患者様の努力に大きく左右されます。検査中、技師の掛け声は患者様の努力を引き出す様に強弱をつけ、タイミング良く掛けることを心がけています。



病院からの お知らせ

◆ 出前講座のご案内 ◆

ヴォーリス記念病院では、地域の皆様の交流と健康づくりのお手伝いの一環として、当院医療スタッフが地域に出向き、医療や健康に役立つ専門的知識・技術などを紹介します。

地域の皆さまの健康保持増進や疾病予防などのお役に立てればと願っております。ぜひご利用ください。

会場に当院チャペルを
ご利用頂けます！

【お問い合わせ】 ヴォーリス記念病院 企画渉外課
TEL : 080-9590-5725 (直通)
※詳細は、ホームページにてご確認ください。



お気軽にご相談下さい。

「令和6年度 滋賀県病院大会」

令和7年2月2日(日) 会場：ピアザ淡海

本大会は、県下の病院従事者が一堂に会し、病院を巡る諸問題について協議研究を深め、今後の病院運営に資するために毎年開催されています。

滋賀県の三日月知事より表彰の授与があり、当院からは12名の職員が、永年勤続会長表彰(勤続15年以上)を受賞しました。表彰式後に行われたパネルディスカッションでは、「これからの病診連携を考える」というテーマで、当院長 五月女 隆男医師が「地域包括ケアシステムに基づいた病診連携の取り組みと課題」という演題で発表致しました。



令和6年度(第44回)滋賀県病院大会



地域療養支援部

患者様やご家族様に住み慣れた生活の場で、安心して療養し生活を送って頂けるようサポートします！

- ・健康保険、介護保険等の社会保障制度について
- ・在宅での生活、介護についての不安
- ・施設の入所や利用について
- ・地域の病院、開業医の皆様からの受診、入院依頼

※総合受付の並びの4番相談窓口まで、お気軽にご相談ください。

TEL (0748) 32-5221 (直) / FAX (0748) 36-5412 (直)

〒523-0805 滋賀県近江八幡市円山町927-1

電話 : 0570-01-5211

FAX : 0748-32-2152 (代表)

*シャトルバス(無料送迎)あります。

●編集後記●

当院ホスピス病棟の日常を描いた映画「近江ミッション 願いと祈りと喜びと」(満洲雅幸監督)が今年1月より全国順次公開中です。“寄り添う”とは…。日々の生活の中でも改めて考えさせられます。是非、映画館へ足を運んで下さい。

【編集・発行】 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 企画渉外課

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院